

しもの診療所だより 3月号

みなさんこんにちは。今月は過敏性腸症候群のお話です。

過敏性腸症候群とは、大腸や小腸に原因となる異常が見つからないのに、便通異常と腹部症状が続く病気です。主な症状は腹痛、腹部不快感や下痢、便秘などの便通異常です。大きく、次の2つのタイプに分けられます。緊張すると下痢をしたり、電車に乗るとおなかが痛くなって、何度も途中で下車してトイレに駆け込む下痢型。ストレスがかかると何日も排便がなく、うさぎの糞のようなコロコロとした固い便しか出なくなる便秘型です。なかには下痢と便秘を交互にくり返す人もいて下痢や便秘などの症状が1か月以上続いているかたは、大腸検査（大腸カメラ、注腸検査、便潜血など）をお勧めします。大腸検査をして、ほかに原因となる病気がない方は、過敏性腸症候群（IBS）の可能性が高いです。治療としては、食生活を見直したり、ストレスを軽減することが大事です。それでも、改善が見られなければ内服治療となります。

しもの診療所 院長 川井 祐輔